

1 題材構想案

題材名		B衣食住の生活 安全な住まいで安心な暮らし～災害への備え～ 開隆堂	
題材の目標		<p>(1) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の調べ方について理解することができる。【知識及び技能】</p> <p>(2) 家族・家庭や地域における生活の中から住生活についての問題を見出し、課題をもって考え、解決する力を身につけている。【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>(3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて安心安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践している。【学びに向かう力、人間性等】</p>	
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>① 家族の生活と住空間とのかわりが分かり、住居の基本的な役割、機能について理解する。</p> <p>② 家庭内の事故の防ぎ方、自然災害への備えなど、家族の安全を考えた住空間の調べ方や地域との関わり方について理解実践することができる。</p> <p>【SDGsの視点】</p> 	<p>① 家族の健康・快適・安全で持続可能な住生活について問題を見いだして課題を設定する。</p> <p>② 家族の健康・快適・安全で持続可能な住生活について解決策を構想し、工夫する。</p> <p>③ 家族の健康・快適・安全で持続可能な住生活について実践を評価・改善している。</p> <p>④ 家族の健康・快適・安全で持続可能な住生活について考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。</p>	<p>① 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p> <p>【SDGsの視点】</p>   
題材終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
快適で安全な住まいや暮らしにおいて、自らの住まいや地域を見つめることを通して、より安心安全な住まい方について工夫改善し、創造しようとする生徒の姿。			
題材を通した学習課題 （題材の中心的な学習課題）		本題材で働かせる見方・考え方	
住生活をよりよいものにするために、自分自身がどのような技能や知識を習得しなければならないのだろうか。		「健康・快適・安全」「持続可能な社会」の視点から、主体的に課題に取り組む力や地域の特徴を理解し工夫し実践しようとする。	
指導計画と評価計画（ 11時間取り扱いのうち2時間は総合的な学習の時間のカウントとする ）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等
住まいの役割	2	<p>○アンケートの結果と家族からの聞き取りをもとに、住生活における課題に気づき、住まいの基本的な機能について理解する。</p> <p>○自然と共にある日本の住まいについて触れ、自然のよさを取り入れた伝統的な特徴があることについて理解し、住まい方の和式と洋式の特徴について理解する。</p>	<p>【知①】 ワークシート</p> <p>【思①】 ワークシート</p>

安全な住まいで安全な暮らし	2	○家庭内の事故とその原因を知る。 ○幼児や高齢者の安全を考えた住まい方の工夫について考えを出し合う。 ○家族の安全を考えた住空間の整え方について理解し、工夫することができる。	【知②】 ワークシート 【思②③④】 ワークシート・行動観察・課題解決シート・発言
	1	○近年の自然災害について知り、各地域で自然災害に備えた街づくりの例や建物の工夫について理解する。 ○住まいの「自然災害・火災」について対策を考える。	【知②】 ワークシート 【思④】 ワークシート・発言 【主①】 ワークシート・発言・行動観察
災害への備え	1	○地域の防災、減災の取り組みを理解する。 (地域の消防士さんや消防団の方、防災士の方々のインタビューを見せる)	【思②④】 感想シート
	2	○避難所の役割や中学生としての運営のかかわり方について理解する。 ・ゲストティーチャー（防災マイスターの方）の講話 ・避難所クロスカードゲームの実施 (総合的な学習に時間としてカウント)	【主①】 行動観察・感想シート
	1	○班ごとに避難所での暮らしを様々に想定し、自分たち（中学生）ができることをまとめる。（高齢者・小さな子ども・外国の方など）	【主①】 ワークシート・行動観察
	1	○班ごとに考えた避難所での暮らしの提案を発表する。	【主①】 発表・振り返りシート
	1	○クラスごとに発表された内容を掲示パネルにして、市役所などに展示してもらうための準備を行う。	【主①】 パネル・行動観察・振り返りシート

2 題材における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）
中学校学習指導要領「B衣食住の生活」（6）住居の機能と安全な住まい方
教材・題材の価値
<p>本題材は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説技術・家庭科編家庭分野の内容に示される、「住生活（6）住居の機能と安全を考えた住空間の住まい方」において課題をもって、健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族の生活を住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方に関する知識及び、技能を身に付け、これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的態度の育成をねらいにしている。</p> <p>また幼児や高齢者の家庭内の事故を防ぎ、自然災害に備えるための住空間の整え方を重点的に扱い、安全な住まい方の学習の充実を図り、少子高齢社会の進展や自然災害への対策がより一層求められ、推進するためにも協働し様々な意見を生かし、学習課題に取り組むことは大変重要なことである。</p>

本題材における系統

小学校

- (6) 快適な住まい方の工夫
- ア (ア) 住まいの主なはたらき、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方
- イ (イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方
- イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方の工夫

中学校

- (6) 住居の機能と安全な住まい方
- ア (ア) 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能
- イ (イ) 家族の安全を考えた住空間の整え方
- イ 家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫

高等学校

- 家庭基礎 B衣食住の生活の自立と設計 (3) 住生活と住環境
- 家庭総合 B衣食住の生活の科学と文化 (3) 住生活と科学と文化

生徒の実態 (題材目標につながる学びの実態)

■本題材を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 (n = 28名)	はい	いいえ
	・住生活の学習に興味がありますか。	10名
・家族の健康や安全、快適に住まうための方法を知っていますか。	20名	8名
・地域との関わりは多いほうですか。	17名	11名

■本題材の学習に関する意識の状況 (n = 28名)	とてもある	少しある	あまりない	全くない
	①家族の健康・快適・安全を考えた時、自分の家には課題があると思いますか。	2名	17名	7名
②自然災害に対して危機感をもっていますか。	はい	21名	いいえ	7名
③自然災害への備えを家庭で行っていますか。	はい	13名	いいえ	15名
④地域の中で安全な場所 (避難できる場所) 知っていますか。	はい	21名	いいえ	7名
⑤もし災害が起こった時、地域に暮らす全ての人たちは安全に避難できると思いますか。	思う	5名	思わない	23名
⑤の質問で「思う」と答えた人の理由 ・一度経験して逃げる場所を知っている ・市役所のハザードマップがあるから	「思わない」と答えた人の理由 ・高齢者や体が不自由な人は逃げ遅れるかもしれない ・災害は起きないと思っている人が多いから ・道が狭く、家どうしが近いので下敷きになると思う			

■考 察 住生活の学習に興味をもっている生徒は全体数の3分の1程度であり、自分が暮らす家を整える方法などについては、3分の2程度の生徒が知っていると答えた。小学校での住生活の学習を尋ねると「グリーンカーテン」「換気」といったワードが多く返ってくる。日ごろから自分が行っていることを尋ねると、「自分の部屋の掃除」や「風呂の掃除」が多く、日常生活において快適に過ごすために取り組んでいる生徒も多かった。しかし、一方で「家の点検・修理」や「季節のものを片付ける」などの項目は、家族任せになっていることが多い。このことから、住まいの基礎基本を再度学び、生徒自身が「自分事」として意識を高めることができる学習にしたい。さらに、自然災害などについて危機感を持っているが、実際に対策を行っていない家庭も半数以上あった。家族の命を守る器としての住まいのあり方を自分の手で行い、家族や地域の一員としてかかわる力を育てたい。本題材で、生活と住空間との関わり、住空間の整え方の工夫を多様な視点を持ち、意見を出し合い計画・企画することで、住まいの安全や地域との関わりを深め、さらに実践の機会へと繋がり、住まいの自立に向けた力を高めていくことができると考える。

3 指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

本校の研究テーマ

「未来に向かって友と共に伸びゆく生徒の育成～対話活動の充実を通して～」

視点1 対話活動の充実

○グループでの話し合い活動を通して、避難所での暮らしの提案の準備や自分たちの取り組みの紹介パネルを準備することで、自分の課題をもち、話し合いに参加することで、作業の進め方や役割分担など具体的に考えることができるようにする。

視点2 ICT活用

○電子黒板を使い視覚的に分かりやすい授業を行う。

視点3 まとめ、振り返りの工夫の視点

○本時の学びを振り返るためのまとめを行い、本時や本題材の学習が実生活において、どのように活かされるのかを、授業終末で振り返りの時間を設ける。

視点4 人権教育の視点

○学習の展開がわかりにくい生徒もおり、「授業の流れ」を掲示することで、学習活動を確認できるようにしておく。発言しやすい雰囲気づくりとして、話し合いルールを伝え、班活動が活発になり、さらに自信をもって発言できる取組になるように工夫する。

○各家庭の生活状況などにも考慮し、あえて体育館を避難所とした時の暮らしの提案をすることで、共通課題として取組むことができるようにする。

4 ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点

- ・相互性・・・地域理解や地域の人々とのつながりがないと地域の中で孤立、最悪の場合命を落とすかもしれないこと。
- ・連携性・・・防災、減災の対策は、行政や大人の努力に頼るのではなく、中学生も地域の一員として自分の家族・地域のことを考え、協力することが大切であること。
- ・責任性・・・これからの社会、地域を支えていく構成員として、防災・減災に対する知識をもち、行動に移していくことが大切であること。

○本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・コミュニケーションを行う力
防災、減災について自らの意見を他者と交流することで、深め発展させる。
- ・未来像を予想して計画を立てる力
予告なしに訪れる自然災害に対して、命を守る行動がとれるか、自分の行動や生活、地域を見つめる。
- ・進んで参加する態度
避難する時も、復興の間も、自分だけが安全快適な状況にいるのではなく、家族や地域と協力し多くの命を守るために、自らできることを考えておくこと。

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代間の公正を意識できる
- ・幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

○達成が期待されるSDGs

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を